

□ 英語検定に向けてまずは英単語を！！

大学入試改革により、平成30年度入学生（つまり君たち）が大学入試を受験する年からセンター試験の名称が大学入学共通テストに変わり、国語と数学では一部記述式の設問が導入されます。まだどのような問題が出題されるかについてははっきりとしていませんが、施行調査（プレテスト）では複数の情報（文章・図・資料）を組み合わせて思考・判断させる問題や高校での学習場面を想定した設定の問題が出題されました。

英語については従来のセンター試験（マークシートによる筆記80分とリスニング30分）の試験に加えて、民間の資格試験を導入して選抜するという方針が打ち出されています。大学入学共通テストと英語資格試験をどのように組み合わせて選抜に利用するかは各大学に任されているため、2年生の3学期には各大学の募集要項を確認し、どの資格試験を受験すべきかを決めなくてはなりません。

ただし、高校生の多くがこれまでも受験している実用英語技能検定（英検）はこの英語資格試験として認定されており、対策用の問題集もたくさん発行されているため、最も受験しやすい試験だと考えられます。

そこで本校では **1年生の第3回目（1月）の英検で準2級を全員受験**し、2年生の第3回には2級合格を目標として英語の学習を続けるように計画を立てています。そのため冬休みの課題として、準2級の問題に取り組みます。もちろん全員に準2級の合格をしてほしいのですが、ある一定量の英単語を修得しておかないと合格することはできません。

英語表現の授業では英単語テストを実施していますが、一夜漬けや直前で覚えるだけになっていませんか。繰り返しを伴わずに一夜漬けで覚えた英単語はしばらくすると記憶から抜け落ちることになります。使える知識として英単語を修得するためには、①発音をしながら単語を覚える、②繰り返し覚える、この2点が必要です。毎回この2点を意識して取り組んで下さい。

□ スタディサポート結果分析！！

スタディサポート第2回の結果を10月29日の総学で返却します。個人の成績や学習状況の振り返りは成績表を見て行いますが、今日は57期生の全体的な結果について紹介したいと思います。

以下の表を見てください。過去の先輩たちと学カリサーチの各科目の平均正解率を比べました。

	国語	数学	英語
57期生	53.8%	50.4%	61.3%
56期生	55.0%	57.1%	60.3%
先輩との差	-1.2	-6.7	+1.0

56期生は過去3年間で最もよい平均正解率の高い先輩たちでしたが、残念ながら2科目で56期生の平均正解率を下回る結果となりました。特に数学では、平均の正解率が下がっているのが気になりますし、正解率が40%を下回る人が56期では42人だったのに比べ、57期では76人に大きく増加しました。また、学習状況リサーチの結果を見ると、数学の平日の学習で「ほとんどしない」と答えた人の割合が前回の38.9%から今回は55.7%に増加しています。2年次に文系を選択した人も数学Ⅱの授業があるので、ここで苦手を克服しないと来年は苦労することになりますよ。